

日医FAX ニュース



日医FAXニュース
編集・発行：日本医師会 (03-3946-2121)

■ 日医連擁立の自見氏が当選

— 参院選 —

第26回参院選は7月10日に投開票があり、厚生労働分野に関わりの深い候補者の当落も続々と明らかになった。

比例代表では、日本医師連盟が擁立した自民党の自見英子・元厚労大臣政務官が自民党内の厚生労働関係の主な当選者の中で一番の票を獲得して2期目の当選を果たし、全国的な支持の広がりをおこさせた。

当確の報道を受け、自見氏は東京都文京区の日本医師会館で、松本吉郎・日本医師会長らと喜びを分かち合った。選挙区では、福島で自民から出馬した星北斗・前福島県医師会副会長が初当選を果たし、地元の根本匠元厚労相らと共に支援者に謝意を示した。

【メディファクス】

■ トリプル改定へ「試練共に乗り越える」

— 再選の自見氏 —

日本医師連盟の組織内候補として再選を果たした自民党現職の自見英子氏は「これから

日本、世界は大きな困難を迎える。2024年度のトリプル改定もそうだが、それ以外の外交、安全保障の領域でも、子ども対策でも大きな試練を共に乗り越えていかなければいけない」と決意を示した。

自見氏は東京・本駒込の日本医師会館で医師会関係者らと共に開票を待った。開票開始直後に当選確実の吉報が届くと、立ち上がって感謝の意を示した。自見氏は「気持ちを一つにして6年間を歩んでいきたい。新たな決意で胸がいっぱいだ」と述べた。

松本吉郎会長は「さらに活躍していただき、私どもと一緒に国民の命と健康を守れるような政治をするために大きく羽ばたいてほしい」と期待を示した。東京都医師政治連盟の尾崎治夫委員長、同じく組織内候補の羽生田俊参院議員らも祝辞を述べた。

安倍晋三元首相の死去を受けて万歳三唱は行わず、開票開始前に黙祷をささげた。

【メディファクス】

■ 「国民医療の保持増進に多大な力添え」

— 安倍元首相の逝去に・松本会長 —

日本医師会は7月9日、安倍晋三元首相が逝去したことを受け、松本吉郎会長名でコメントを発表した。コメントの冒頭では、突然の訃報で深い悲しみを覚えているとし、哀悼の意を表した。

安倍元首相には、日本が世界に誇る国民皆保険の堅持への理解を示していただく中で、国民医療の保持増進に多大なる力添えをいただいたと強調。新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に対しては、国民の生命と

健康を守るために奮闘していただいたとも述べ、「これらのご功績に対して、改めて感謝の意と尊敬の念を表するとともに、安倍元首相のご冥福を心よりお祈り申し上げます」とした。【メディファクス】

■ 感染再拡大、都道府県医などに対応要請

— 日 医 —

日本医師会は7月7日付で、新型コロナウイルスの感染が増加していることを踏まえた対応を要請する通知を都道府県医師会長と郡市区医師会長宛てに出した。

要請では、現在の体制の堅持に努めるよう依頼すると同時に、▽都道府県・市区町村行政や医療統括責任者等との緊密な連携▽感染患者の受け入れ病床の確保と要請後の迅速な即応病床化▽後方支援体制の確立▽診療・検査医療機関、受診・相談センターや自宅療養者への健康観察・診療医療機関の拡充（公表を含む）▽高齢者施設等に対する協力医療機関の実質的な役割の確認と改善、支援体制の強化▽臨時の医療施設や入院待機施設の整備への協力▽罹患後症状（後遺症）への診療体制▽コロナ医療以外の通常医療を分担する医療提供体制の整備—などへの一層の協力を呼び掛けている。

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部等から都道府県等に「現下の感染状況を踏まえたオミクロン株の特性に応じた検査・保健・医療提供体制の点検・強化について」が出されたことなどを踏まえ、関係者との連携や施策の推進も求めている。

【メディファクス】

■ コロナワクチン、添付文書改訂を了承

— ノババックスで・厚労省会議 —

厚生労働省の厚生科学審議会と薬事・食品衛生審議会の合同会議は7月8日、米ノババックスと武田薬品工業の新型コロナウイルスワクチン「ヌバキソビッド筋注」の添付文書改訂を了承した。審議結果を踏まえ厚労省は同日、心筋炎・心膜炎について注意喚起する記載を添付文書に加えるよう指示した。

添付文書の「重要な基本的注意」の項目に、「心筋炎、心膜炎が報告されているため、被接種者またはその保護者に対しては、心筋炎、心膜炎が疑われる症状（胸痛、動悸、むくみ、呼吸困難、頻呼吸等）が認められた場合には、速やかに医師の診察を受けるよう事前に知らせることを加える。現段階では国内での「ヌバキソビッド筋注」接種後の心筋炎・心膜炎の事例報告はないものの、安全対策措置の検討などに今後相当な時間を要することを考慮し、添付文書を改訂することとなった。

● 5種のコロナワクチン「重大な懸念なし」

この日の合同会議では、新型コロナウイルスワクチン5種類の評価も実施した。ファイザーの「コミナティ筋注」「コミナティ筋注5～11歳用」、モデルナと武田薬品の「スパイクバックス筋注」、アストラゼネカ（AZ）の「バキスゼブリア筋注」、ノババックスと武田薬品の「ヌバキソビッド筋注」の安全性を検討し、これまでと同様に「ワクチンの接種体制に影響を与える重大な懸念は認められない」との見解をまとめた。

6月12日までに副反応疑い報告制度でワクチン接種後の死亡事例として報告があったの

は、ファイザーが1603件・1件(5~11歳用)、モデルナ/武田が157件、AZが1件。

●HPVワクチン、5月分「重大な懸念なし」

同日の合同会議では、HPVワクチンについて5月の副反応疑いの状況を報告。安全性については「重大な懸念は認められない」ことを確認した。

いずれも5月1日~31日のデータで、MSDの4価HPVワクチン「ガーダシル」の接種可能延べ回数(医療機関への納入数量)は6万5455回。MSDから6件、医療機関から6件(うち重篤1件)の副反応疑い報告があった。グラクソ・スミスクライン(GSK)の2価HPVワクチン「サーバリックス」の接種可能延べ回数は905回。医療機関・GSKからの副反応疑い報告はなかった。

MSDの9価HPVワクチン「シルガード9」については、接種可能延べ回数が5964回。MSDから5件の副反応疑い報告があった。

厚労省が8日に開いたのは、厚科審の予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会と、薬食審の薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会の合同会議。【メディファクス】

■ 災害医療、DMATの法的位置付けなど論点

— 厚労省WG —

厚生労働省は7月8日の「救急・災害医療提供体制等に関するワーキンググループ」で、第8次医療計画策定に向けた災害医療に関する論点を提示した。災害派遣医療チーム

(DMAT)の派遣や活動の円滑化に向けた「法令上の位置付けの必要性」などを挙げた。

坂本哲也構成員(日本救急医学会代表理事)は、DMATは都道府県から要請された医療機関

から派遣されるが、指揮命令系統が不明確になるなどの課題を指摘し「DMATは、公的な活動なのでDMATの活動中は一時的に公務員として活動するなどの位置付けを検討すべき」と訴えた。

厚労省はこのほかの論点として▽DMATなど以外で各種職能団体が養成している災害時に支援を行う人材との連携▽災害拠点精神科病院の整備推進▽豪雨災害への対応として災害拠点病院などでの電気設備の高所移設や止水板設置などの対応一などを論点に挙げた。

加納繁照構成員(日本医療法人協会長)は職能団体によって養成された人材について

「ある程度、災害時の経験や教育システムがあるところは、明記すべき」と指摘した。また「災害拠点病院だけでは対応できない。拠点病院以外の病院の協力についても、医療計画に盛り込むべき」と主張。併せて、協力病院に対する財政支援の重要性も訴えた。

【メディファクス】

■ 手足口病、定点当たり0.60で7週連続増

— 感染症週報第25週 —

国立感染症研究所は7月8日、感染症週報第25週(6月20~26日)を公表した。手足口病の定点当たり報告数は0.60となり、7週連続で増加した。都道府県別の上位は、福井(3.43)、沖縄(3.21)、島根(2.26)。過去5年間の平均は下回っている。報告数は1881例。

このほかの定点把握の対象となる主な5類感染症の報告数は、感染性胃腸炎以外は過去5年の同時期と比べて少ない状況だ。

【メディファクス】